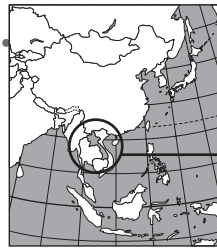


# ユニセフ子ども物語

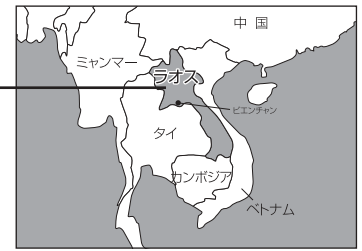
地球に生きる子どもの暮らし

Lao PDR

ラオス



地図は参考のために掲載したもので、  
国境の法的地位について何らかの立場  
を示すものではありません。



## 人身売買の犠牲になったナン

### となりの国に働きに出る

ラオス北部の小さな村で、両親と2人の弟の5人で暮らすナンは13歳の女の子。明るい働き者です。毎日、小さな畑で農業をする両親を手伝ったり、家事をしたり、弟たちの世話をしています。貧しいけれど、おだやかな生活です。

ナンの村には小学校がありません。遠くの村にある小学校までは通うことができないし、ナンの家庭は生活するだけで精一杯で、学校に通うために必要なお金を出せません。

「いつか学校でいろいろなことを勉強してみたいな」とナンは心の中で夢見ています。

ある日、村に住む顔見知りの女の子が、「となりの国によい仕事があるからナンを働きに出さないか」と両親に言ってきました。洋服を作る工場の仕事で、技術も身につけられるし、ちゃんとお給料をもらえるというのです。「この村にいるより、ナンにとっていいことかもしれない。給料を仕送りしてもらえたら家族の生活も少し楽になるし…」と両親はナンを働きに出すことにしました。



ナンはとても不安でした。いままで村の外に出たことは一度もありません。でも、心細い気持ちをがまんして、ナンは案内の人と一緒に村を出ました。

隣の国の街は、大きな建物や、たくさんの人と車であふれ、生まれ育った村と全く違いました。

### だまされ、つらい毎日

ナンが連れて行かれたのは洋服を作る工場ではなく、知らない女の子がたくさんいる家でした。そして、数日後、知らない男の人がナンを連れて行ったのは売春宿だったのです。

あまりの驚きと恐ろしさで、「お父さん、お母さん、助けて!」とナンは大声で泣き叫びました。でも、言うことをきかないと宿の主人に暴力をふるわれるので、こわくてたまりません。どうしたらよいかわからず、とてもつらい毎日を送っていました。



### 家にもどれる日

ある日、ナンは、見張りのすきをみて仲間と一緒に逃げ出し、幸運にも警察に保護されました。そして、ナンのように人身売買の犠牲になった女の子を保護する施設で心と体をいやすリハビリテーションを受けています。

ナンは早く家にもどりたいのですが、学校に行ったことがないので自分の名前や両親の名前を書けず、自分の村の場所もわかりません。身元を確認することがむずかしいのです。

ナンは一日も早く、家族のもとへもどれる日を待ち望んでいます。



〈文・構成：(財)日本ユニセフ協会〉

国土は日本の本州と同じくらいの大きさで、その約70%は山岳地帯や高原です。約50の民族が暮らすといわれる多民族国家で、多様な伝統文化が受け継がれています。しかし、世界の最貧国のひとつで、国境を接する国々にとの経済格差がさまざまな問題を生んでいます。

# 人身売買を防ぐための 取り組みと子どものケア

## ■ ラオスのきびしい現実

ラオスはタイ、ベトナム、カンボジア、中国、ミャンマーの5つの国に囲まれた小さな国で、国内の17県のうち、16県が隣りの国と接しています。経済発展をしている国と隣接しているにもかかわらず、ラオスは社会的、経済的な発展が遅れています。

貧しい村には学校や、十分な収入を得られる仕事がありません。こうした状況を背景に、「よい仕事がある」「もうかる」などの話にだまされ、人身売買の犠牲となる子どもが増えています。

**子どもの状況** (より詳しい統計は『世界子供白書2006』をご覧ください)

項目	ラオス	東アジアと太平洋諸国 (ラオスはこの地域に含まれる国)	日本
5歳未満児死亡率 (1,000人あたり) (人)	83	36	4
小学校に入学する 子どもの割合(男) (%)	88	96	100
小学校に入学する 子どもの割合(女) (%)	82	96	100
国民総所得 (米ドル)	390	1,686	37,180

※数字は2004年の統計による

## ■ 人身売買のワナ

人身売買について正しい知識をもたない人びとは、仲介する人が知り合いであったりすると、簡単にだまされてしまうことがあります。ラオスでは特に12歳～18歳の女の子が被害を受けています。

女の子は連れていかれた先で暴力を受けたり、搾取的な仕事をさせられたり、売春宿での仕事を強制されたりする場合があります。よい仕事や給料の話も、親や子どもたちをだますためのワナなのです。ある女の子はわずか約750米ドルで売買されていたという事実もあります。



人身売買の犠牲になった女の子  
© UNICEF/Jim Holmes

人身売買について注意を呼びかける看板次のような内容が書かれている  
「よく考えれば大丈夫。人身売買の被害者にならないで!!  
私は騙されました…。いい仕事に就けると思っていました。  
でも、ほとんど休む間もなく、一日中つらい仕事をしなければならぬのです。  
女性と子どもの人身売買は違法です!!」  
©日本ユニセフ協会

## ■ 人身売買から子どもを守る取り組み

ラオス政府は子どもたちを人身売買から守るために、法律を整備したり、メディアを活用し、理解を広げる活動を行っています。

ユニセフは、人身売買にあつた子どものケアのために、国内の主要な女性団体が行うカウンセラー養成や、被害者たちを保護する施設の運営を支援しています。



ユニセフが支援する保護施設 ©日本ユニセフ協会

また、行政や警察、その他さまざまな団体などと協力して、人身売買に関する情報収集を行ったり、テレビ、新聞へ働きかけて広報活動に力をいれています。

広報活動の一例として、人身売買への注意を呼びかける大きな看板をつくり、国境近くや主要幹線道路沿いに設置しています。看板は5種類あり、2～3カ月ごとに設置する場所を変えています。大きな看板1枚の製作費は約2,000米ドル、張り替えの経費は約100米ドルかかります。



「子ども物語」を活用して学習活動をされた先生はぜひご一報ください。内容をご紹介させていただきます。